

自立家族の家

設計：シーラクス

個人の自立を重視する家族のための家。

家としての「玄関」がなく、家族それぞれが自分の個室から出入りする設計で、今ならシェアハウスに適しているかもしれません。

25年前の家族はこの家をどのように使ったのか、その使い方や使い勝手を検証しました。

■ 自立家族の家



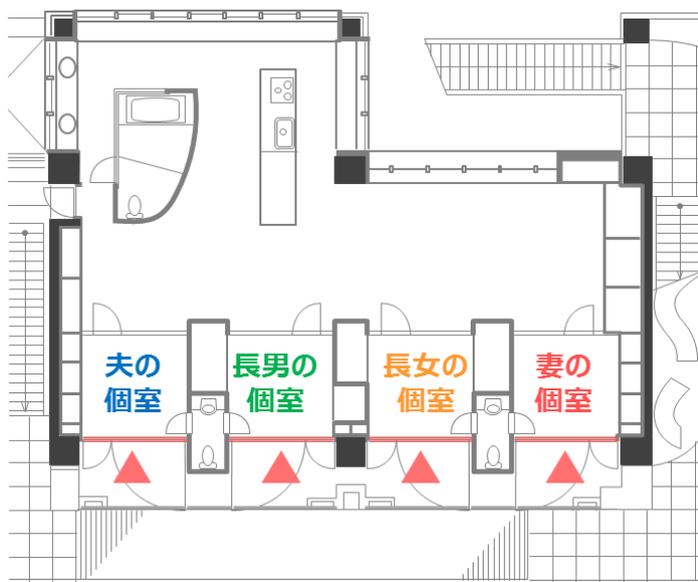
■ 一般的な4LDK (例)



- ・95～98年の4年間、夫（41）、妻（41）・長女（15）・長男（13）の4人家族が居住（年齢は95年時点）。
- ・入居時はそれぞれが個室を使い、個室から出入りしていたが、2年目以降、妻の個室は夫婦の寝室として使用されることになりました。
- ・妻は「家族がいる時間は家族で過ごしたい」との気持ち。また、来客時に個室を通過して出入りすることにも違和感があったとのこと。
- ・ただし、妻以外の家族には好評でした。

[実験の詳細はこちら](#)

<入居当初>



<3年目>

▲ 各アクセス



- ・「個人」としての役割が中心である場合には使いやすい住まいであるが、家族のために家事等を担う役割の割合が高くなるほど、使いにくいと感じるのかもしれませんが。
- ・家族の「玄関」の意義を再確認すると同時に、「接客」のしやすさのニーズの高さも確認できました。